

ADVANCE

TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE

豊田工業大学広報誌

vol. 101
MAY 2018



CONTENTS

追悼 豊田達郎名誉理事長がご逝去	02
特集~南棟の紹介~	03
2017年度 卒業式・修了式	04
2017年度卒業・修了生の進路状況	05
卒業・修了生に聞く内定獲得の秘訣	06~07
豊田工大のココが良かった	08~09
2018年度 入学式	10
受賞	11
人事紹介	11
新キャンパスNEWS	12
お知らせ	12

SCHEDULE 行事予定 (5月~8月)

入試情報

■ 5月26・27日	オープンキャンパス
■ 6月16日	2019年度 第3年次編入学試験 (高等専門学校卒業予定者対象) (6月27日合格発表)
■ 7月14・15日	オープンキャンパス

学事

■ 7月23日~31日	前期定期試験
■ 7月27日	修士学外実習 (~9月20日) (予定)
■ 8月1日	夏期休業 (~9月2日)
■ 8月5日	海外英語演習 (~9月9日)



学校法人トヨタ学園 豊田達郎名誉理事長がご逝去

本学園の豊田達郎名誉理事長が2017年12月30日にご逝去されました。
本学の基盤確立と国際化を中心とした発展に、多大な功績を残された故豊田達郎名誉理事長の生前のご活躍に敬意と感謝の意を表し、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

本学での代表的な功績

ご自身の米国留学経験やトヨタ自動車と米国ゼネラルモーターズの合弁会社の設立など海外での事業展開のご経験をもとに、2003年の豊田工業大学シカゴ校(TTI-C)の開学をはじめとする本学の国際化に強いリーダーシップを発揮された。

また、2013年には、TTI-C開学の10周年を記念し、本学とTTI-Cのさらなる交流・連携強化を図るため私財をご寄付いただき『豊田達郎奨学基金』制度を設立。現在も有効に活用されている。



豊田工業大学およびシカゴ校関係者とともに(2005年撮影)

豊田達郎名誉理事長の略歴

1929年 6月 豊田佐吉翁を祖父に、喜一郎氏を父に誕生	1992年 9月 トヨタ自動車株式会社 取締役社長就任(～1995年8月)
1953年 3月 東京大学工学部機械工学科卒業	1998年 6月 学校法人トヨタ学園 理事長就任(～2011年6月)
1953年 4月 トヨタ自動車販売株式会社入社	2001年10月 豊田工業大学シカゴ校(TTI-C)*理事長就任(～2013年10月) *TTI-Cは2003年に開学
1984年 2月 トヨタ自動車初の北米生産拠点となるニューユニテッドモーターマニュファクチャリング株式会社(NUMMI) 取締役社長就任	2011年 6月 学校法人トヨタ学園 名誉理事長就任

豊田達郎名誉理事長への感謝にかえて

1998年から本学の第2代理事長を務められ、2011年からは名誉理事長として、本学の円滑な運営と発展に大きく貢献されてこられた豊田達郎名誉理事長が、2017年12月30日に逝去されました。20年間にわたるご尽力に心から感謝するとともに、深い哀悼の念を表します。

豊田達郎氏は、ニューヨーク大学大学院に留学後、トヨタ自動車で、米国駐在、海外部門担当、副社長、社長を歴任され、1998年に、豊田英二初代理事長を

引き継いで、本学理事長に就任されました。

この20年間、本学の充実と発展のために、貴重なご尽力をいただきました。特に、海外での豊富なご経験を基に、本学の教育・研究を国際的に見ても優れたものとするために、海外の大学との協力や連携の大切さを認識され、豊田工業大学シカゴ校(TTI-C)の創立を決定されたことは、本学の歴史の中で、特筆すべきことと言えます。本学は、TTI-Cとのパートナーシップを含め、

学校法人トヨタ学園 理事長 増田義彦
豊田工業大学 学長 榊裕之

さまざまな国際化の取り組みを進めています。が、名誉理事長の示された国際的ビジョンと時代の先駆けたらんとする気構えを礎に、今後も努力を続けてまいります。

豊田達郎名誉理事長のご逝去に際し、本学のためにいただいた多くのご尽力を思い起こすとともに、本学を、小さいながらも世界を視野に入れた、ユニークで優れた大学として発展させていく使命を果たす決意を新たに、心からの哀悼の念と深い感謝を表します。

新キャンパスの中核となる南(S)棟が完成

講義室、研究実験室、事務室などから構成され、新キャンパスの中核となる南(S)棟の竣工式が2月28日に開催された。

最初に、2017年12月30日に逝去された豊田達郎名誉理事長への黙とうをささげた。その後、増田義彦理事長より関係各位への感謝の言葉が述べられ、榊裕之学長からは教育・研究への新たな決意と今後の抱負が述べられた。さらに、キャンパス工事の施工を担当いただいている株式会社大林組の赤木宏行工事

事務所長より、増田義彦理事長へ鍵の受け渡しが行われた。

また、竣工式当日の正午より、南(S)棟の大時計が時を刻み始めた。

南(S)棟への移転対象は、従来の1～3号棟、および工作実習工場のある4号棟。3月から5月にかけて移転作業を行い、順次稼働を開始。2018年度より授業は南(S)棟で実施されている。

なお、キャンパス全面リニューアルの完了は2020年央を予定している。



株式会社大林組の赤木宏行工事事務所長(右)より鍵を贈呈される増田義彦理事長(左)

■南(S)棟の概要

- ◎規模:延べ床面積…約18,500㎡
- ◎構造:6階建て(4階が中庭の1階に相当)
- ◎構成:講義室ゾーン、研究室・教員居室ゾーン、創造性開発センター※、事務ゾーンの4ゾーン

南棟フロア構成図

	西側	東側
6階	講義室	研究室・教員居室ゾーン
5階	事務局・来客ゾーン	
4階	講義室	
3階	(化学実験、物理学実験などを行う)教育実験室	
2階	ものづくりの科学研究室 実習室 アクティブチャレンジスペース	
1階	実習工場	

※Eiji工房(1・2階)と各実験室(3階)から成り、実習・実験の体験的学習や学生自主活動のアクティブチャレンジ活動を通じて「創造性」を発揮する力を養うとともに「ものづくりの科学」を学ぶセンターを設けた。



●講義室



●創造性開発工房(Eiji工房)



南側上空より



2017年度卒業式・修了式

2017年度卒業式・修了式が3月16日に本学体育館にて挙行された。工学部卒業生は89名、大学院工学研究科(修士課程)修了生は40名(台湾国立中興大学からのダブル・ディグリー留学生4名を含む)、博士(工学)学位取得者は2名の計131名。

榊裕之学長から、学部代表の本田直輝君(豊田工業高等専門学校[愛知県]出身)、修士代表の加藤文崇君(杜若高等学校[愛知県]出身)に、それぞれ学位記が授与された。また、博士学位については下村憲一君(本学修士課程出身)、長坂憲士朗君(本学修士課程出身)の学位取得が論文題目と併せて紹介された。

榊学長は、これまでの先人の名を挙げながら「未来への希望と高い志を持って創造の精神を発揮し、思いやりのある人間として社会や世界への貢献に尽力してほしい」と祝辞を贈った。

続いて、学校法人トヨタ学園増田義彦理事長は「先が見通しづらい時代だが、これを大きなチャンスと捉え“時代に先んずる”という志を持って社会に羽ばたいてほ



しい」と激励した。

また、来賓の方々を代表し、株式会社豊田自動織機 取締役社長大西朗氏が祝辞を述べた。大西氏は「仕事のやりがいや達成感は自ら工夫して得るもの。チームワークを大事にしつつ、最後は自身で考え抜く力を持って活躍してほしい」と期待のメッセージを贈った。

卒業生を代表して謝辞を述べた濱島拓末君(株式会社豊田自動織機出身)は、大学生活での経験と成長を振り返り、修了生代表の畔柳俊英君(名古屋南高等学校[愛知県]出身)は、研究に打ち込んだ



榊裕之学長

日々とその教育環境について感謝を述べた。

最後に、学業成績・人物ともに特に優秀な人物に与えられる「豊田奨学基金賞」が、米田拓真君(旭丘高等学校[愛知県]出身)と佐野光君(瑞陵高等学校[愛知県]出身)に授与された。

なお、工学部では卒業生89名のうち、主専攻分野の他に副専攻分野の所定単位を修得し認定を受けた学生は19名、そのうち2分野で認定を受けた学生は7名となった。



株式会社豊田自動織機 取締役社長 大西朗氏



2017年度卒業・修了生の進路状況

就職決定率 **100% 達成**
(開学以来 100%)

第一志望への就職率 **75%**

卒業・修了生の進路(就職は内定状況)

	学部		修士課程			博士後期課程		
	社会人	一般 ^{*1}	社会人	一般	留学生 ^{*2}	社会人	一般	留学生
卒業・修了	4(8)	85(79)	2(1)	34(37)	4(0)		2(1)	0(4)
満了							0(1)	
内訳	企業復帰	4(8)	2(1)					
	就職		39(30)		34(37)		2(2)	0(3)
	進学		45(48)					
	その他(未定・帰国等)		1(1)		4(0)			0(1)
計	4(8)	85(79)	2(1)	34(37)	4(0)	0(0)	2(2)	0(4)
	89(87)		40(38)			2(6)		

*1: 学部卒業者のうち1名(一般・就職)は9月に卒業済み *2: 修士修了者のうち3名(留学生)は9月に修了済み(帰国)

()は昨年実績人数

一般学生の就職先一覧

(人数順、五十音順、★新規)

(名)

学部(39名)	
アイシン精機株式会社	3
豊田合成株式会社	3
トヨタ車体株式会社	3
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	2
株式会社デンソー	2
株式会社東海理化	2
愛三工業株式会社	1
株式会社アドヴィックス	1
オーエスジー株式会社	1
カルソニックカンセイ株式会社	1
株式会社キラ・コーポレーション★	1
小島プレス工業株式会社	1
株式会社シーエナジー★	1
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	1
ダイハツ工業株式会社	1
中部電力株式会社	1
株式会社テクノ中部★	1
東海旅客鉄道株式会社	1
株式会社トヨタコミュニケーションシステム	1
トヨタ自動車株式会社	1
株式会社豊田自動織機	1
豊田通商株式会社★	1
トヨタ紡織株式会社	1
日野自動車株式会社	1
株式会社VSN★	1
マツダ株式会社	1
株式会社MARUWA	1
未来工業株式会社★	1
矢崎総業株式会社	1
レシップホールディングス株式会社★	1

修士(34名)	
トヨタ自動車株式会社	5
株式会社デンソー	3
矢崎総業株式会社	3
アイシン精機株式会社	2
スズキ株式会社	2
株式会社豊田自動織機	2
愛知製鋼株式会社	1
株式会社アドヴィックス	1
ジャスコエンジニアリング株式会社★	1
住友電気工業株式会社	1
住友理工株式会社★	1
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	1
ダイキン工業株式会社	1
月島機械株式会社★	1
株式会社東海理化	1
DOWAサーモエンジニアリング株式会社	1
豊田合成株式会社	1
トヨタ紡織株式会社	1
ニチコン株式会社★	1
株式会社ヒップ	1
マツダ株式会社	1
株式会社メニコン★	1
ヤマハ発動機株式会社	1

参考 一般学生の就職先企業 累計上位20社(1995年~)

参考 学部生の副専攻分野 認定状況(名)

企業名	人数
トヨタ自動車株式会社	82
アイシン精機株式会社	55
株式会社デンソー	52
株式会社豊田自動織機	52
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社	45
矢崎総業株式会社	37
本田技研工業株式会社	36
三菱電機株式会社	26
豊田合成株式会社	23
株式会社ジェイテクト	21

企業名	人数
トヨタ紡織株式会社	21
株式会社東海理化	20
トヨタ車体株式会社	19
株式会社アドヴィックス	15
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社	15
愛三工業株式会社	13
ダイハツ工業株式会社	13
パナソニック株式会社	13
フタバ産業株式会社	13
株式会社トヨタコミュニケーションシステム	12

所属分野	認定状況		
	認定状況	2分野認定	1分野認定
機械システム	3名	7名	
電子情報	2名	2名	
物質工学	2名	3名	
計	7名	12名	

中部電力株式会社



学部
小川 貴基 君

プロフィール
出身校(県): 東海高等学校(愛知県)
研究室: 触媒有機化学研究室
研究テーマ: 新規な触媒的
エーテル合成手法の開発

同社を選んだ理由

「工学の知識とコミュニケーション力を生かしたい」

技術職以外の職種にも関心を持っていて私は、就職活動では1つの業界に絞らず、メーカー、商社、金融などの業界にもエントリーしました。文系の学生が多い企業では、理系(工学部)というだけで一目置かれます。最終的には、工学の知識を生かしつつ、多くの人と関わりを持ってインフラ業界を選びました。

アドバイス

「自己PRは説得力のある話し方で」

自己PRでは、具体的なエピソードを交えて説得力のある話し方を心がけました。私の場合、「誰とでもコミュニケーションを取れること」ですが、これだけではPRとしては弱くなってしまいます。そこで、塾でのアルバイトで講師をしながら160人弱のチューターを束ねる責任者をしてきた経験をもとに、一人ひとりの考えを引き出し読み取ることで、そして不満を改善につなげて職場の雰囲気や働き方を良くし、多くの人たちとの信頼関係をどのように築いてきたかを話しました。

東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)



学部
宮崎 智之 君

プロフィール
出身校(県): 滝高等学校(愛知県)
研究室: 半導体研究室
研究テーマ: (t-BuN=)Mo(NMe₂)₂を用いたSi基板上へのMoOxの成膜

同社を選んだ理由

「人々の安全を守るエンジニアになりたい」

就職活動を始めたころは、モノづくりを通して人々の生活を安全で快適なものにしたいと、製造業への就職を考えていました。しかし、JR東海に就職した本学出身の社員の方からお話を伺い、業種は異なっても自分の希望に近い仕事があることを知り、関心を持ちました。実際の現場を見学できる同社の「カンパニーツアー」にも参加し、安全の確保や故障を未然に防ぐ技術、開発業務に携わる社員の方々の姿を見て、強く志望しました。

アドバイス

「豊田工大での経験を自信に変えて」

豊田工大では学外実習、寮生活、留学プログラムなど、さまざまな方々との交流や学生が主体的に活動する機会が豊富にあります。大学生活において取り組んだ経験は、どんなことでもすべてかけがえのないものになります。自信を持って、就職活動に臨んでください。

豊田通商株式会社



学部
本田 直輝 君

プロフィール
出身校(県): 豊田工業高等専門学校(愛知県)
研究室: 固体力学研究室
研究テーマ: 鍛造プロセスの仕事最小化を目的とする鍛造中間形状の最適設計法に関する研究

同社を選んだ理由

「日本の産業を支え、新興国の発展に携わりたい」

本学に編入学した当初は、エンジニアを目指していました。3年次の学外実習をきっかけに、「自分が本当にやりたいことは何か」を考えるようになり、新興国にバックパッカーとして旅をした経験から、「日本の産業を支えたい」「新興国の発展に携わりたい」という強い意思を持ちました。それを実現するための最良のフィールドは総合会社であり、その中でも工学部のバックグラウンドを最大限に生かすことができるのが豊田通商だと感じて決めました。

アドバイス

「『自分が本当にやりたいこと』を考え抜く」

企業を選ぶ際には、志望以外の業種や業界も一度は視野に入れるべきだと思います。「自分はこれだ」と思っているけど、もっと他にも心躍る仕事があるかもしれません。「メーカーに就職する人が多いから」と周りに合わせる必要は一切ありません。「自分が本当にやりたいことは何なのか」「仕事を通してどのように社会に貢献したいのか」を考え抜き、自分にとって最良の企業を見つけてください。

株式会社メニコン



修士
佐々木 理衣 さん

プロフィール
出身校(県): 加茂高等学校(岐阜県)
研究室: 高分子ナノ複合材料研究室
研究テーマ: 3次元繊維状多孔質高分子足場で培養された乳腺がん細胞における上皮間葉分化転換

同社を選んだ理由

「自身の取り組んできた研究を生かしたい」

メニコンは、素材開発から医療機器の製造まで一貫して行う、ものづくりの点から医療に貢献している企業です。主力のコンタクトレンズ事業のほか、動物医療事業、環境・バイオ事業、ライフサイエンス事業を展開しています。その中のライフサイエンス事業では、動物由来成分を含まない細胞外マトリクスの代替足場製品や、生体内の動的環境を再現することを目的とした製品を開発しており、私が取り組んでいる研究が生かせると思いました。

アドバイス

「経験値は下がらない、機会があれば挑戦したほうがいい」

これは先輩からの言葉です。修士海外学外実習だけでなく、3分野修得認定やサマーセミナーでの経験も自己PRにつながりました。学業以外ではマラソン同好会に参加し、フルマラソンを5年連続完走。もともと走るの苦手でしたが、持久力・忍耐力を鍛えられました。在学中にぜひいろいろなことに挑戦して、経験値を稼いでほしいと思います。

ヤマハ発動機株式会社



修士
中西 雄大 君

プロフィール
出身校(県): 四日市南高等学校(三重県)
研究室: 設計工学研究室
研究テーマ: 差分進化によるアークサンプリングを用いた小型二輪ロボットの経路計画

同社を選んだ理由

「自分の『就活の軸』に一番合っていた」

私の就職活動における軸は、「航空技術もしくはロボット技術を有する企業」「人の笑顔につながる製品づくり」でした。ヤマハ発動機は、無人航空機技術とロボット技術のどちらも有しており、常に新しい分野への技術展開を目指している点にも魅力を感じました。人事の方々もどの方も丁寧で優しく、面接前の学生を和ませてくれました。私を含め、内定した他大学の学生も、技術力だけでなく、そういった社風に惹かれた人が多かったです。

アドバイス

「就職活動は積極性が大事」

在学中はさまざまな業種のインターンシップや説明会に参加しました。実際に工場や事業所を見学するのは、就職してからはなかなかできないと思ったことと、自分の興味のある業界に興味をもつ学生がどんな人たちなのか知りたかったからです。このような機会に周りの目を気にして質問をしないのはもったいないです。就職活動は、多くの企業を見ることができ、自己理解を深め、視野を広げられるチャンスなので、積極的に活動してほしいです。

トヨタ自動車株式会社



修士
山根 丈亮 君

プロフィール
出身校(県): 彦根東高等学校(滋賀県)
研究室: 知能数理研究室
研究テーマ: 双方向性と非線形性を考慮した上位語・下位語関係の推定

同社を選んだ理由

「世界の車社会をリードする企業で技術を広めたい」

人とクルマがコミュニケーションをとる技術を実用化し、より便利で安全な車社会をつくる一端を担うべく、自動車メーカーを志望しました。研究室では人工知能の研究に携わり、トヨタとも共同研究をしていたので、自らの研究で得た知識と経験が役立つことを確信できていました。数ある完成車メーカーの中で、トヨタは世界の車社会をリードする企業。いつか自分の開発した技術を広く世の中に広めたいと思っています。

アドバイス

「自分の『就活の軸』を整理する」

面接で何度か「あなたの就活の軸はなんですか」という質問をされました。この質問は言い換えれば志望動機にもなるので、面接を受ける前に自分の「就活の軸」を整理しておくのと良いと思います。また、企業によっては研究プレゼンを課すところもありますが、その際は正確性や網羅性よりも「分かりやすさ」を重視し、専門分野の異なる人や文系の人にも「なるほど」と納得させることが大事です。

“豊田工大のココが良かった”

P06-07に登場した卒業・修了生に「豊田工大の良かった点」を挙げてもらった。



豊田工大の
ココが良かった

幅広い工学知識と深い専門性の修得

現代社会の課題の多くは複合的で、1分野の専門性だけでなく、複数の領域を活用して新しい技術や画期的な製品が開発されている。本学では、「機械システム」「電子情報」「物質工学」の3分野を横断し学んだ上で、主専攻分野を選択。深い専門性を身につけ、複合領域に対応可能な人材を育成している。また、第二の専門分野（副専攻）として他分野の履修も可能だ。

●「企業の開発現場に必要な分野横断型の学び」

大学での研究だけを考えると自分の専門領域に特化した勉強に意識が向きがちですが、学部3年次の学外実習で「企業の開発現場では単一分野の知識だけでなく、さまざまな工学分野の知識によって問題解決がなされている」ことを実感しました。本学では、「機械システム」「電子情報」「物質工学」の3分野をすべて学ぶので、高校時代には視野に入っていなかった分野に興味を持てたり、実際に勉強してから自分の専門分野を決めたりすることも可能です。(山根君)

豊田工大の
ココが良かった

豊富な実験・実習科目

本学では、「学んだ工学知識を実験・実習を通じて体験的に理解することが重要である」との考えに基づき、開学時より実験・実習科目を数多く取り入れている。各学年で課題発見能力や創造力を段階的に育み、モノづくりと創意工夫の力を備えた人材を育成している。



●「企業において二度の実習経験ができる学外実習」

学部1、3年次でそれぞれ約1か月間、企業での実習を経験している点は、他大学にない強みです。技術員、技術者として企業の生産現場を経験し、多角的な視点を持ち、働くということを具体的に学ぶことができます。(中西君)

●「学外実習で『どんなエンジニアになりたいか』が明確になった」

学部3年次の学外実習において、製造業の設計開発部門で5週間、新規部品の製造工程の改善に取り組んだことが、「自分が将来どのようなことに携わりたいか」「どんなエンジニアになりたいか」をしっかりと認識するきっかけになりました。(宮崎君)

●「実験・実習科目で“論理的・理論的に考える力”が身についた」

「創造性開発セミナー」や「工学実験」を通して“論理的・理論的に考える力”を身につけることができましたのが良かったです。考える力は普遍的なもので、どのフィールドに立っても生かすことができます。(本田君)

豊田工大の
ココが良かった

社会人とともに学ぶ環境と学部1年次全寮制

企業から派遣された社会人学生と一般学生が共に学び、切磋琢磨する他に類を見ない教育環境。自主性・自律心・協調性やリーダーシップなどの社会人基礎力を身につけ、豊かな人間性を養うことを狙いとして、学部1年次は全寮制を採用している。

●「社会人に必要なスキルと協調性が身につく学部1年次全寮制」

企業では寮生活が必要などもあるため、在学中に経験していると「生活面でのストレス耐性ができている」と評価され、学業以外の社会人になるための必要なス

キルと協調性を身につけているアピールもできます。また、社会人学生の方々と共に生活したので、得るものがあります。(中西君)



豊田工大の
ココが良かった

国際性を磨く環境

学内では、独自の英語教育プログラムや外国人ポストドクトラル研究員・留学生らと日常的に交流を持てる国際交流スペース(i Plaza)を設けるなど、国際性を磨く環境を整えている。また、「海外英語演習」や「修士海外学外実習(インターンシップ)」など実際に世界各地で学ぶ機会も用意している。



●「世界観が大きく変わった海外英語演習」

学部1年の時にアメリカに約1か月滞在しました。ホームステイ先でホストファミリーと過ごし、これまでテレビや動画を通して観ていたアメリカ人の生活を実体験できました。語学だけでなく、文化、国土面積の違いによるスケールの大きさなどに触れ、世界観が大きく変わりました。(小川君)

●「グローバルな視点を養うことができる環境」

学部3年の時、台湾の国立中興大学から本学に留学していたダブル・ディグリーの学生と仲良くなり、台湾に関心を持ち、翌年に同大学のサマースクールに参加しました。本学は海外からの留学生や研究者の数が多く、外国人と関わる機会が多いので「自分自身を見つめなおす」きっかけになりました。(本田君)

●「修士海外学外実習での経験が最終面接で役立った」

修士海外学外実習の到着の飛行機でロストバゲージに遭いました。初めての単身海外で途方に暮れましたが、空港での手続き、着替え・生活必需品の調達などを一人でやりきり、荷物も無事手元に戻ってきました。実習中は専門用語での会話の日々。内定先企業の最終面接は予告なしの英語面接でしたが、研究内容についての説明や質問への返答にも実習での経験が役に立ちました。(佐々木さん)

2018年度 入学式



2018年度入学式を4月2日に挙
行し、学部97名(工業高等専門学校
からの編入生7名を含む)、大学院修
士課程42名(台湾國立中興大学
からのダブル・ディグリー留学生3名
を含む)の計139名が入学した。

榊裕之学長は「大学時代は、知
力・体力・感受性にも恵まれた貴重
な時間。この時間を大事にして、豊
かな人間性と創造力を備えた人物
へと成長してほしい」と、期待の言
葉を贈った。

続いて、学校法人トヨタ学園

増田義彦理事長は、新し
い学び舎となる南(S)棟
がトヨタグループ各社からのご支
援で成り立っていることに触れた
うえで、「恵まれた教育・研究環境
と、切磋琢磨できる仲間を得られ
たことに感謝と自信を持ち、身体
を大事にしてよく学んでほしい」と
激励した。

また、豊田工業大学シカゴ校
(TTI-C)の古井貞照学長は「“な
ぜ?”という思考は、人工知能
(AI)にはない人間ならではの能
力。課題解決に向けて自分で考え、
創造性を養い、優れた能力を身に
つけてほしい」と挨拶した。

新入生を代表して、学部の永田
裕暉君(磐田南高等学校[静岡県]
出身)、大学院の米田拓真君(旭丘
高等学校[愛知県]出身)がそれぞ
れ誓いの言葉を述べ、これから始
まる大学生活において、勉学や研
究に励もうとする熱い意気込みを
見せた。



豊田工業大学シカゴ校(TTI-C)古井貞照学長



2018年度入試結果

	入試区分	入学定員	募集人員	志願者	合格者	入学者
工学部	一般入試	90	70	739	410	90
	専門高校特別推薦入試(公募制)		若干	6	3	
	外国政府派遣留学生特別選抜入試		若干	0	0	
	社会人入試(含編入学試験)		20	12	9	
	(内編入学試験)		(若干)	(1)	(0)	
高等専門学校卒業予定者を対象とする第3年次編入学試験		若干	16	13	7	
大学院修士課程	一般入試	36		40	39	42
	学部3年次学生を対象とする特別選抜入試		36	0	0	
	社会人入試			0	0	
	ダブル・ディグリー留学生入学資格審査		若干	3	3	
大学院博士後期課程	夏季入試(2017年7月実施)	12	12	2	0	1*
	冬季入試(2017年11月実施)			0	0	
	外国人(海外在住)(2017年度内実施)			1	1	

※2017年10月入学

【受賞】

学内

豊田奨学基金 研究賞

研究進歩賞

優れた研究を活発に進めて注目すべき成果を達成し、さらに大きな発展が期待できる研究に対し、その顕彰と奨励を目的として授与する。

受賞者	研究業績・テーマ
古谷 克司 教授 (機械創成研究室)	圧電アクチュエータの変位制御法と応用機構の開発

研究奨励賞

将来の進展が大いに期待される萌芽的研究を行った教員およびポストドクトラル(PD)研究員に対し、さらなる研究推進の奨励を目的として授与する。

受賞者	研究業績・テーマ
三輪 誠 准教授(知能数理研究室)	深層表現学習の自然言語処理への適用に関する成果
Xu Yuquan PD研究員(スマートビークル研究センター)	ステレオビジョンシステム実用化に向けての課題解決
鈴木 誠也 PD研究員(表面科学研究室)	グラフェン-銀構造を用いた化学耐性のある表面増強ラマン散乱基板の開発研究



英語優秀賞

卒業判定の時点で、英語
Step-Up Point (E-SUP)
制度への取り組みによ
り獲得したポイントが上
位の学生に授与する。

受賞名	受賞者	E-SUP ポイント	研究室
英語最優秀賞	本田 志穂(向陽高等学校[愛知県]出身)	519	表面科学研究室
英語優秀賞	米田 拓真(旭丘高等学校[愛知県]出身)	487	知能数理研究室
	多田 太隆(名古屋大学教育学部附属高等学校[愛知県]出身)	433	設計工学研究室

※英語Step-Up Point (E-SUP) 制度…入学から卒業まで継続的に英語を学ぶことを狙いとした本学独自の制度。TOEIC (IP) への取り組みをはじめ、各種英語イベントへの参加などを通じてポイントを獲得する。なお、卒業要件は100ポイント以上取得、卒業生の平均は176ポイント。



学外

各学会から、人格・学業ともに優秀であると認められた者に授与される。

受賞名	受賞者	研究室
日本機械学会島山賞(学部)	本田 直輝(豊田工業高等専門学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
日本機械学会三浦賞(修士)	加藤 文崇(杜若高等学校[愛知県]出身)	熱エネルギー工学研究室
精密工学会東海支部学生優秀賞	加藤 匠(桑名高等学校[三重県]出身)	固体力学研究室
自動車技術会大学院研究奨励賞	中山 展空(岡崎城西高等学校[愛知県]出身)	固体力学研究室
計測自動制御学会中部支部長賞	米田 拓真(旭丘高等学校[愛知県]出身)	知能数理研究室
電気学会東海支部長賞	杉本 昂也(石川工業高等専門学校[石川県]出身)	電磁システム研究室

人事紹介

新
任



情報記録工学研究室

田辺 賢士 准教授 (33歳)

2013年 京都大学 博士(理学)
2013年~2015年 大阪大学 特任助教
2015年~2018年 名古屋大学 助教
2018年4月 本学准教授に就任

主な研究分野

私は“スピントロニクス”と呼ばれる新しい分野で研究しています。エレクトロニクスは電子の電荷の自由度を制御していますが、スピントロニクスは電荷だけでなくスピンの自由度も制御することで、エレクトロニクスでは実現し得ない革新的デバイスの創出や、スピン自由度に関する新しい学理の開拓を目指しています。

定
年
退
職



成清 辰生
教授



2018年3月31日付で定年退職を迎えた成清辰生教授(制御システム研究室)は1990年に本学に赴任。学生部長や「難環境作業スマート機械技術研究センター」のセンター長として、教育・研究の両面で本学に貢献された。

1月26日には最終講義が開催され、教職員、学生をはじめ多くの卒業生・修了生が聴講した。「『制御』との出会いとそれから」と題し、専門分野の研究に携わることとなった経緯や、これまでの研究成果および研究生活に関わった方々への謝辞が述べられた。なお、成清教授は4月1日付で特任教授に就任した。

新キャンパス NEWS

工作実習工場が「創造性開発工房(Eiji工房)」としてリニューアル

「創造性開発工房」では実習・実験の体験的学習や学生自主活動のアクティブチャレンジ活動を通じて「創造性」を発揮する力を養うことを狙いとしている。

優れた実習工場を設け活用することの大切さを説いた、本学の創設者で初代理

事長の豊田英二氏の精神を想起するため、愛称を「Eiji工房」とすることになった。

工房とその上階に設けた教育実験室との有機的連携により「ものづくりの科学」を学ぶ「創造性開発センター」として運営される。

3Dプリンタや電気自動車、ロボティクス関連機器が設置された専用スペース



科学・技術に関連した、学生による自主的な活動を促進するためのアクティブチャレンジスペース



切削加工・放電加工・射出成形・溶接など、モノづくりの原点を学ぶための装置や設備が充実



お知らせ

INFORMATION

2018年度 オープンキャンパス日程決定

2018年度のオープンキャンパスを下記の日程で実施する。大学概要・入試結果の説明のほか、施設見学や体験授業、在学生との交流などを用意している。

●予約方法などはホームページにて掲載 ▶ <https://www.toyota-ti.ac.jp/prospective/event/open.html>

日程	予約	主なイベント
5月26日(土)、5月27日(日)	要	クリーンルーム体験 (両日午前・午後開催、各回抽選20名)
7月14日(土)、7月15日(日)	要	在学生によるキャンパス案内および相談会、 体験授業
9月 8日(土)、9月 9日(日)	不要	大学祭見学



公式ホームページの常時SSL化について

本学公式ホームページを皆様により安全にご利用いただけるよう、ページの常時SSL化(https化・ページの通信を暗号化するセキュリティ対策)を行いました。これに伴い、URLが以下のとおり変更となりましたのでお知らせいたします。

「http://」でアクセスした場合も、自動的に「https://」へ転送されますが、ホームページでのリンク設定や、ブックマーク・お気に入りに登録されている場合は、お手数ですが新URLにて再登録をお願いいたします。

(旧) <http://www.toyota-ti.ac.jp/> ▶ (新) <https://www.toyota-ti.ac.jp/>

編集後記

新キャンパスの中核となる南(S)棟が完成し、新たなスタートを切りました。今号では概要のみのご紹介となりましたが、今後も豊田工業大学の教育・研究活動と併せて発信していきたいと考えています。